# 防災研修バスツアー（防災対策隊第４回研修会）

## ～活火山（有珠山）との共生、災害遺構から学ぶ減災への備え～

９月２７（日）、洞爺湖町を訪れ、洞爺湖有珠火山マイスター阿部さんと市毛さんの案内で、西山山麓火山散策路を巡りました。参加者は小学生７名を含む４０名、北会館８時の出発です。恵み野は雨模様、朝に予定されていた一斉清掃も中止になりましたが、洞爺湖に近づくに連れ天候も回復し、絶好の研修日和でした。

2000 年有珠山噴火は、海側から洞爺湖温泉に向かう旧国道２３０号線沿いに発生し、一帯に多数の火口と断層ができ、噴火から約５カ月の間に大地が隆起して傾きました。散策路は災害遺構として整備され、噴石・地殻変動で被災した建物や道路などを間近にみることが出来ます。

１０時過ぎ散策路北口を出発。コースには、道路の途中に出来た沼と左右に不自然に曲がりくねった国道、地面が隆起し階段状に大きな段差が出来た道路、火山で埋もれた道路標識や水道補修中のショベルカー、噴石で破壊された住宅が続いていました。コース終点、南口にある旧とうやこ幼稚園では、大きな噴石が遊び場一帯に散らばり、建物の壁には当時の噴石が突き刺さったまま残っていました。建物の屋根、室内は噴石で破壊され、室内に育った樹木が窓から枝葉を伸ばしていました。


傾きがひどく生活出来ない建物の前で


道路が段差状に隆起


標識が埋まった旧国道

コースは約１．５ｋｍ、一時間半程度の所要時間でしたが、起伏が激しく事前の情報収集が不十分なため、歩行に負担を掛けてしまいました。火山マイスターの阿部さんは、災害時に伊達市内勤務校で避難場所として受け入れた経験から、噴火の恐ろしさと備えの必要性を強くお話していました。約３０～５０年間隔で噴火を繰り返す活火山、麓で暮らす方々の緊迫感を感じることが出来ました。その後、短い時間でしたが、洞爺湖町ビジターセンター火山科学館に寄りました。

昼食後は、壮瞥町で果物狩りを楽しみました。りんご、なし、ぶどう（バッファロー・スチューベン・ナイアガラなど）、プルーンも食べ放題です。食事後にもかかわらず、店頭に並ぶ果物とは異なり熟期も食べ頃、重たい研修とは異なり気持ちも明るく、皆さんニコニコ顔で収穫の秋を堪能。そして、お土産にじっくり選んで購入。大滝でトイレ休憩をはさんで、１７時に北会館到着。４０周年記念事業ならではの充実したツアーでした。



ビジターセンターに立ち寄りました


プルーンもリンゴも葡萄もおいしく頬張る


大きなリンゴ、幸せ一杯